

建設産業委員会（おでかけ委員会）会議録

平成24年10月3日（水）

午後4時15分 開会

○山本半治委員長

建設産業委員会を開会します。今日は、半田商業高校の生徒の方の観光甲子園で行ったプレゼンテーションをしていただき、その後意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○生徒（5人）

【商都半田の「復活」と「創造」を目指して、プレゼンテーション】

○山本半治委員長

ありがとうございました。半田市議会には3つの委員会がありまして、その中の建設産業委員会の7名のメンバーと、1人の事務局職員でお邪魔させていただきました。偶然、私ども建設産業委員会では、中心市街地の活性化という事業がテーマとしてあります。今日は、見させていただいて、本当に感動しております。少しお時間をいただいて、こんな素晴らしいお話を聞かせていただいたので、質問をさせていただきたいと思いません。緊張せずに、お願いします。

○沢田清委員

今日はありがとうございます。沢田清と言います。今日のプレゼンは、100%観光甲子園でやったものと、同等でやっていただきましたか。ちょっとプラスして言ったことはありますか。

○生徒A

少しだけあります。

○沢田清委員

そうですか。今やっていただいて、本当にこのプレゼンより上がったのかなと思うくらい素晴らしい出来だったと思います。他の、上のプレゼンがどんなふうだったのかなと思って。ここまで半田市を、広く、わかりやすく説明していただいて、ありがとうございますということをまず言いたかった。それと、僕たちが子どもの頃は、知多半田駅の前は、ユニーというお店があって、土日になると、アーケードがあって、すごく人が歩いてました。君たちの時代は、もうそんな時はなくて、今とほとんどかわってないですね。その賑わいがあった時代を知らないのに、賑わいを創ろうと思ってますよね。それは、ど

ういうふうに、今が寂しいなと思われるところ、こんなところが寂しいと思うところがあったら、教えてほしい。名古屋と違うところは、こういうところじゃないかなっていうところとか。

○生徒B

いつも思うのは、名古屋に買い物に行って、名古屋駅ってすごいたくさんの人がいるじゃないですか。それから、半田に帰るにつれて、人がだんだんいなくなって、知多半田駅で降りて、お母さんが、知多半田駅の近くは、昔たくさんお店があったんだよってことを言っていて、もっとお店が増えたら、知多半田駅を利用する人達も増えるんじゃないかなって思うんです。

○鈴木幸彦委員

鈴木幸彦といいます。今日はありがとうございます。私事ですけど、高校生の息子がいまして、全然違うなと感心しちゃいました。僕たち、みんな半田市議なんですけど、商業高校のみなさんっていうと、いろんなどころから来ていると思うんですけど、みなさんって、お住まい半田市ですか。

○生徒C

半田市内は、2人です。

○鈴木幸彦委員

やっぱりこういうことっていうのは、地元を愛するっていうか、半田が大好き、半田が元気になってほしいっていう思いが当然強くて、みなさん半田市内の方が集まったのかなって思ったんですけど、まず、5人のみなさんがメンバーなんですよね。

○生徒C

他に2人います。

○鈴木幸彦委員

どういった声かけで、集まったのかなっていう、そのスタートのあたりは何か教えていただけたらと思います。元気なまちになってほしい、活気が欲しいっていうところからだと思うんですけど、何か、強い想いがあったのかなって思うんですけど。

○生徒A

最初、この話を聞く前から、半田は少し寂しいかなって思っている部分があって、その時に、3年生になってから先生から、観光甲子園っていうのがあって、高校生の力で半田が活気付けれるっていうことを聞いて、そこに惹かれてやりました。

○鈴木幸彦委員

先ほど、後輩たちに繋げていくっていう言葉があったんですけど、是非こういうこと

は続けていただいて、さらに盛り上げて行っていただきたいと思います。

○中川健一委員

中川と言います。よろしく申し上げます。今のプレゼンの内容は、大学のフィールドワークでやるような発表内容で、本当にびっくりして、本当によく勉強されてるなど感心しました。僕たちに是非1つアドバイスをいただきたいと思いますんですけども、もしもこの賑わいのない知多半田駅前に、例えばこんなお店が欲しいというのが何かあったら、教えていただけるとありがたいなと思います。

○生徒D

私は、スターバックスコーヒーが欲しいです。名古屋まで行かないとないので。限定商品とかもあって、すぐ無くなってしまうので、作ってほしいなと思います。

○生徒C

私は、ショッピングモールが欲しいです。電車でも行きますけど、不便なので駅前にあると行きやすいと思います。

○生徒B

私はスターバックスコーヒーと似てるんですけど、昔ミスタードーナツがあったって聞いたんですけど、学校帰りにちょっと友達と気軽に寄れるお店が欲しいです。

○生徒A

僕はやっぱり遊ぶところが欲しいです。ゲームセンターとか、コロナみたいなところが欲しいです。

○生徒E

僕も帰りに友達とかと気軽に寄れる喫茶店みたいなのが欲しいです。やっぱり学校が閉まる時間が早いので、でも話し足りないとか、学校ではできない話とかあったりするのです。

○渡辺昭司委員

渡辺と言います。本当に素晴らしい内容だったと思います。内容とかは、知多半島各市町村の素材を、どんなふうに、知っていたのか、調べたのか、どういうふうに考えたのか教えてください。

○生徒E

まず、集まってからブレインストーミングをやりまして、それで住んでいる地域もばらつきがあったり、まだ他にもメンバーがいるんですけど、そのメンバーたちと一緒に自分の住んでいる地元のいいものを出しあったり、新聞から読み取ったりして、それでいいものの表みたいなのを作って、どれを取り入れていくかっていう話をしました。

○渡辺昭司委員

点を上手に線にするというか、内容にしているなということを感じていたんですけど、線にすることについて、考えたり、議論したことがあれば教えてください。

○生徒E

商品にしていただくので、僕らが夢だけを語っていても、現実的な話をすると、お金がなくちゃ何もできないし、お金を得るためにはって考えると高校生の発想力だけじゃどうにもならないので、先生方に話を聞いたり、いろいろやりました。

○成田吉毅副委員長

成田といいます。亀崎に住んでいます。本当に素晴らしい内容で、まず、観光甲子園がきっかけでこういうことを始めたと思うんですけど、もし観光甲子園がなかったらここまではなかったのかなと思うんですけど、その辺はどうなんでしょう。どこまで観光甲子園が始まる前までに煮詰まっていたのか。

○生徒A

やっぱり観光甲子園に出ることが目標じゃなくて、商品化をして活性化させるっていうことが目的だった。

○成田吉毅副委員長

そっちが先にあって、たまたま観光甲子園っていうものがあったから、それに乗りながら短期で詰めていったっていうことですね。JTBさんが乗ってきたのはいつごろなんですか。最初からそういう話だったんですか。

○先生

乗ってきたというより、アドバイスは最初からいただいています。

○成田吉毅副委員長

最初からJTBさんのアドバイスを受けながら作り上げたということですね。

○先生

特別に来ていただいて、実際に「観光商品を作るには」という観点で、講義をしていただきました。

○成田吉毅副委員長

ちなみに半田市の方も商工観光課が絡んでいて、どういうアドバイスをいただいたんですか。

○先生

実は科がちょっと違いまして、経理課と情報処理科と別れていまして、その経理課の生徒たちが商工観光課の職員とお話をして、依頼をしたんですけど、その時には、人脈

づくりというのが重要になるから、交流会や名刺交換会、そこらへんは商工観光課の方にアドバイスいただきました。我々の中にはそれは実はなくて。

○成田吉毅副委員長

どうしてこういう内容を聞いたかという、商工観光課が行う半田市の事業の中にも、観光振興事業っていうのがあって、その内容があまり芳しくないの、どういったアドバイスいただいたのかなって思って、みなさんの斬新なアイデアがJTBさんやいろんな人たちの協力で形になったと思うんですけど、そういったものが残されたらいいなと思います。

○新美保博委員

新美と言います。まず感想から、議員を18年目になりますが、18年やっていながら、こういうことがぜんぜんわかっていなかった。ですから、これを見て今日は目からうろこが落ちた感じがしました。若い高校生が、これだけできるのにどうして大人ができなかったのか。常日頃、活性化といいながら、思いつかなかった自分たちも、やっぱりここは反省しながら、まあ恥じるというところまではいきませんが、少し見直しをしなければいけないというのが正直なところ。やれることっていうのは、それぞれの立場であると思う。高校生は高校生の立場としてやれること、大人は大人として、またそれぞれの議員としてやれること、社会人としてやれることとあると思うんだけど、それをやれるところの土俵というのが、こういう会話ができることが一番大事。自分たちはこれだけできる、出来ると思ってても実際やってみたら出来ないこともあるだろうし、思った以上にできることもあるだろうし、誰が何ができるかということ一度見る。その中で、実際進んでいけるものは何かなっていうのは、具体的に何をやるかは永遠のテーマになるかと思うんだけど、何かにひとつチャレンジして、ダメならまた戻ればいいんだもんね。そういった機会がこれからは必要かなと思う。必要というよりもこれからは絶対にそれをやらなければ進んでいけないというふう感じて、このプレゼンを見ながらそういう思いをしました。特に感動したのは、「おばあちゃん、一緒に買い物に行こう」という最後のところだけ、おばあちゃんが中心市街地、駅前で購入ができる町がいいね。人を集めるためには、それなりのものを作っていかないと。頭がかたくなっちゃって、手書きでこうあるべきっていうものしかない。それを若い子が、こういうことやったらどう、ああいうことやったらどうというアイデアを出してもらって、それが一緒になってやれるといいよね。今回はプレゼンを観光甲子園でやって、賞をいただいたことも素晴らしいし、それは評価しなければいけない。だけど、これで終わっちゃいけない。これからが大事。やっとスタートに立ったのかなと。これから町づくり

のために何ができるか、今日1回だけではなくて、これからも出来るんなら定期的に話をして、僕らだけじゃなくて、いろんな人と話をして何か作り上げれると面白い半田になるのかなと。そうすると市外の人達も、こんな面白い街があるんだと、また来てくれる。来てもらった後も、また来たいとリピーターが増える。そういうことが出来たら最高かなとも思う。現実、絵に描いた餅なんてものは食べれないから、現実的には食べれる餅を作り上げないといけないと思う。若い子たちがここまで考えてくれるなら、頼もしいなとは思っています。一緒にやりましょう。お願いします。

○山本半治委員長

最後になりましたけど、私委員長の山本半治です。実は41年前にこの高校を卒業しまして、ここの評議員もさせていただいてまして、今回半田市にも優秀賞の報告に来ていただいて、私も卒業生なので、なんとか議会としても高校生の方と会う機会がなかったもんですから、みんなに問いかけたんです。今日はほんとにいい機会になって、OBとしても嬉しく思っています。私が高校の頃は部活が終わって帰るときには、ボーリング場もありましたし、映画館もありましたし、喫茶店も食べ放題のところがあって、本当にすごく賑わっていたんです。本当にあの頃の賑わいが戻るとありがたいなとずっと思っておりながら、議員になった時に、市街地の活性化ということが非常に大きなテーマになっていましたけど、今回はみなさんにこうやって提案していただいて、なんとか議会としてもできることがあればしたいなと思っていますので。また要望があったらどんどん言ってください。力になれると思うので、協力してやりたいと思いますので、本当に今日はありがとうございました。

午後4時45分 閉会